「夏季期間における節電対策と熱中症対策に関する申し入れ」で業務委員会開催 猛暑日で汗だく！何が企業イメージか！ 盛夏は開襟シャツで気持ち良く仕事ができる！

本部は7月19日、申第4号「夏季期間における節電対策と熱中症対策に関する申し入れ」について業務委員会を開催しました。

会社は節電対策として①列車運行は新幹線、在来線とも通常ダイヤを確保しつつ節電に取り組む②運転本数の多い区間は対平成22年ピーク比5%の削減率を自主的に設定し節電に取り組む③関西電力管内で計画停電が実施された場合、紀勢線の一部で運行計画の変更があり得る、などと回答しました。

熱中症対策としては①社員への啓蒙・啓発の他、環境面でも対策を実施する②夏季における駅係員・乗務員のネクタイ、上着の省略を行う考えはない、などと回答しました。

申第4号に対する会社回答と主な議論内容は以下の通りです。

1. 夏季期間の節電対策と熱中症対策について具体的に明らかにすること。

【回答】

節電対策

列車運行については、新幹線と在来線とも通常ダイヤでの運行を確保しつつ節電に取り組む。節電については、中部電力管内の在来線について運輸局要請を踏まえて、東海道線豊橋～大垣間、興津～島田間、及び中央線名古屋～多治見間について、対平成22年ピーク比5%の目標を自主的に設定して節電に取り組むこととし、従前の取り組みを継続又は深度化させる。具体的には、313系省エネ車両を導入してきた効果に加え、車内照明・空調、駅などでの節電に取り組む。

熱中症対策

従来より猛暑対策、熱中症対策を充実させてきており、今夏も確実に実施していく。重篤な熱中症を防止するためには当人の予防意識が最も大切であるため、引き続き社員への啓蒙を継続的に行っていく他、環境面でも対策を実施していく。

具体的には、まず健康管理センターからの啓発、職場単位で開催されている安全衛生委員会等での注意喚起、労災情報等による情報展開などを実施し、職場・社員の熱中症防止の意識を高めていく。同時に、各現業機関での点呼等で入念な体調確認、適切な休憩時間の確保、及び十分な水分・塩分の補給等の指示が行われている。更に、系統や業務の形態によって、スポットクーラーの設置、熱中飴等の配布、暑さ指数を活用した注意喚起等、必要と考えられる対策を取っている。また、ネッククーラーや冷却スプレーの配布を昨年と同様に、今年も実施する。

2. 「需給ひっ迫警報」が発令された場合や「計画停電」が実施された場合の具体的な対応を明らかにすること。

【回答】

新幹線及び紀勢線以外の在来線については通常通り運行する。紀勢線については、電力需給ひっ迫警報が発令された時点では各線とも通常通り運行する。万が一計画停電が実施される場合、出来るだけ運行を確保するが、踏切などの設備が停電の影響を受ける可能性があり、安全を確保するため熊野市駅～新宮駅間の運行計画を変更する場合がある。

3. 昨年夏季期間の節電実績を過去の電力消費量と比して明らかにすること。

【回答】

昨年7月8月の実績で、東海道新幹線の運行用電力は東京～新大阪全体で対前年95%であった。在来線は運行用電力と駅の電灯電力合計で当社全体で対前年98%であった。

4. 職場、駅、車両等の照明や空調は、社員及び乗客の安全面、健康面を十分に考慮して行うこと。

【回答】

節電の取り組みは、安全及び健康に留意して実施している。

5. 夏季期間における駅、車掌、運転士等のネクタイ着用を中止し、開襟シャツタイプの制服着用とすること。

【回答】

制服のデザインについては、企業イメージやサービスに対する当社の姿勢として、現行のデザインを維持することが必要であるとの結論に至っており、現行のままネクタイの着用を省略することは考えていない。

6. 車両所等の職場では、昨年夏季期間に熱中症対策として「サプリメント」や「ネッククーラー」が配布されたが、根本的な熱中症対策として検修庫の冷房設備を設置すること。

【回答】

猛暑対策は作業環境の改善及び労働災害防止の観点からも、ハード及びソフト両面から、過去より検討し実施している。

組合：節電対策で列車の運行に影響はないということか。

会社：通常通りの運行させる。車両を減らしたりすることはしない。駅のエレベーターやエスカレーターは体の不自由なお客様がのため、全て稼働させる。

組合：計画停電が実施される場合、踏切などの設備が停電の影響を受ける可能性があり、安全を確保するため熊野市駅～新宮駅間の運行計画を変更する場合があると回答しているが、具体的にどのようなようになるのか。

会社：計画停電は実施2時間前に公表される。そのときに列車の運行計画の変更等を考える。バッテリーの消耗により、踏切の安全確保が出来なくなる等の影響が出てくる。

組合：踏切のバッテリーは増強しないのか。

会社：バッテリーを増強する考えはない。

組合：踏切バッテリーの増強を行うこと。

組合：今年の節電目標は各電力会社別に見て達成されたのか。

会社：東京電力管内はクリアした。もともと新幹線の節電要請は0%であった。在来線は運行用電力と駅の電灯電力合計で当社全体で対前年98%であった。

組合：今年は駅や車両の空調の設定温度は設けていないようだが、なぜか。

会社：列車は車掌がこまめに温度調節を行うようにしている。駅は、すでに対策を講じてきている。

組合：震災以降駅の照明が暗くお客様の安全が確認しづらい駅がある。改善すること。また、駅によっては非常灯のみが点灯していて非常灯を頼りに駅を利用しなければいけない駅もある。改善すること。

会社：具体的な事はここでは分からない意見として聞いておく。

組合：直ちに改善すること。

組合：職場では、空調を28℃に設定するように指示がされているが、社員が暑いと感じるような節電対策は止めること。

会社：オフィス・事務所は室内温度を28℃にするように指示している。暑い・

寒い個人差がある。

組合：28℃であっても暑いと感じれば温度を下げて良いのか。

会社：事務室の室内温度を28℃にするということ。勝手に下げてはいけない。

組合：28℃以上あれば28℃にするために、28℃より低く設定して温度を下げなければならない。場所によっても温度差がある。一概に28℃とはならない場合がある。

会社：あくまでも事務所の室内温度を28℃にするということである。

苦情は会社が責任を持って対応すること！

組合：駅の照明を減光したり、在来線の車内照明を消灯した場合、乗客からの苦情が出る。会社が責任を持って対応すること。

会社：お客様の対応は、担当の係員が行うこととなる。節電対策に限らず、苦情対応は通常の業務の一環として一般の社員が行う事である。また、テレホンセンター等での苦情の対応は実施してきている。

組合：それは違う。大震災をきっかけとした原発稼働停止以降の節電対策である。そのため通常業務に加え、苦情対応の業務が増加することとなり通常の業務の一環とはいえない。ましてやこれから繁忙期には入り、お客様の対応は増加する時季である。さらに社員に負担を負わすのか。

会社：節電については世の中の誰もが知っていることであり、理解されてきている。

組合：しかし実際には苦情が出ている。対応するのは現場の社員である。会社として現場社員の負担を軽減すべきである。ホームページで更に訴える事や駅への掲示やこまめな車内放送等を実施すべきである。

会社：ホームページには掲載されている。

組合：様々な手法でお客様に節電体制の周知と協力を訴えること。

組合：会社として職場での自家発電装置はどのくらい設置されているのか。

会社：必要な箇所には設置している。新たに設置する考えはない。

組合：駅の照明などLED化し、節電すること。

会社：今回の節電要請によってLED化する考えはない。

ネクタイ、上着は省略すること！

組合：夏季において駅係員・乗務員のネクタイ、上着を省略しないのはなぜか。
会社：現行の制服デザインが当社の接客スタイルのイメージとして定着しているからである。
組合：政府もクールビズを奨励している。会社の対応は時代に逆行している。デザインは時代で変わっていくものだ。制服全体のデザインを変えてでも社員の健康を考えること。
会社：制服の素材を変更するなど、対応している。
組合：暑さで注意力散漫となり熱中症に罹ることも考えられる。夏季はネクタイ、上着を省略すること。
会社：そのような考えはない。
組合：対立である。

社員に飲料を配布せよ！

会社：車両所では社員が麦茶等を購入し、誰でも飲めるようにしている。暑さ対策として水分補給を行えるよう、会社の責任で飲料を社員に配布すること。
会社：そのような考えはない。
組合：車両所の管理者は、「熱中飴」は休憩時間に摂取しろと言っている。
会社：作業中口の中にモノが入っていれば集中力を欠く。口の中にモノを入れて作業するのはダメである。
組合：それでは熱中症対策にならない。
会社：いつ塩分を補給すれば熱中症に有効なのか、ハッキリしていない。
組合：だからこそ摂取時機について口出しせず、個人に任せること。

以 上